

中国の現状と課題

―党大会開催と尖閣問題

東京大学大学院教授
高 原 明 生

- *「中央」が二つ生まれた胡錦濤政権
- *秘密決議に基づき重要事項でお伺い
- *ダークホースだった習近平総書記
- *亀裂が表面化した第二期胡錦濤政権
- *普遍価値と社会管理で論争噴出
- *薄熙来事件でわかったこと
- *あなどれない保守本流、左派の力
- *9月12日から激烈な報道にシフト
- *「韬光養晦」を使うのは対米関係だけ
- *今、尖閣問題で譲歩はできない



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日、中国共産党の党大会が始まって、タイミングはこれ以上ないとも言えるのですけれども、始まったばかりなのでかえって難しい点があるかもしれません。

高原さんは日本を代表する中国問題の論客ですが、実はお父上の友生さんが伊藤忠商事に勤務されておられて、私も高原友生さんの常務時代に何度か取材をさせていただきました。

大作『日中関係史』全3巻のうち政治編の第1巻を出されたばかりですが、よろしければお買い求めください。この本について宮崎勇さんが書評されて、来週発行の『週刊東洋経済』に載ります。その書評が良かったらお買い求めになるのもいいかと思えますけれど。（笑）

中国問題については、これまで矢吹晋さん、東京新聞の清水美和さん、それに国分良成先生のお三方の講師にもつばらお願いしてきました。今年、清水さんが亡くなられてしまい、メディアでも大活躍されている高原さんをお願いして快諾いただきました。ということで、今日は楽しみにお聞きしたいと思います。それでは高原さんよろしくお願います。（拍手）

高原 皆さんこんにちは。浅野理事長、たいへん丁寧なご紹介ありがとうございます。4000回を超える歴史のあるギネスブックものの講演会ということで、たいへんすばらしいと思います。お招きくださいます、まことにありがとうございます。

なるべく時間内に終わるようと思いますが、